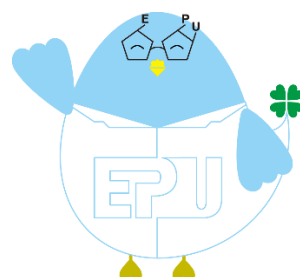
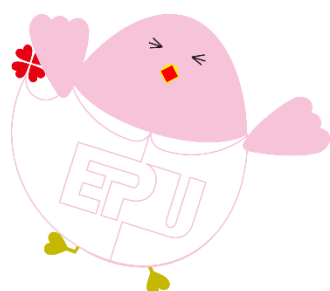


地域交流センター〔E L C C〕

EPU-Local Community Center

活動報告書

令和2年度



公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業 「ホームカミングデー」	4
2. 看護実践セミナー	11
3. 思春期保健スキルアップ研修会	15
4. 高校生の生命科学体験プログラム えひめ高校生生体機能研究プログラム ー心臓拍動の解剖生理ー	20
5. ブック&メディカルトーク	20
6. 麻生小学校 6 年生 大学授業見学「共に生きる」学習	23
7. 2020 サタデースマイル in ひろた「科学教室」	23
III 調査研究	
1. 住民主体の地域づくりが実践できる保健福祉の人材育成 ーアクションリサーチによる研修の開発・評価ー今治に関する意識調査	26
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	28
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	31
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	32
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	34
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	35
6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱された ボランティア活動等）	46
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	48
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	48
VI 地域への施設開放状況	49
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	50
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	51
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	53
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	55

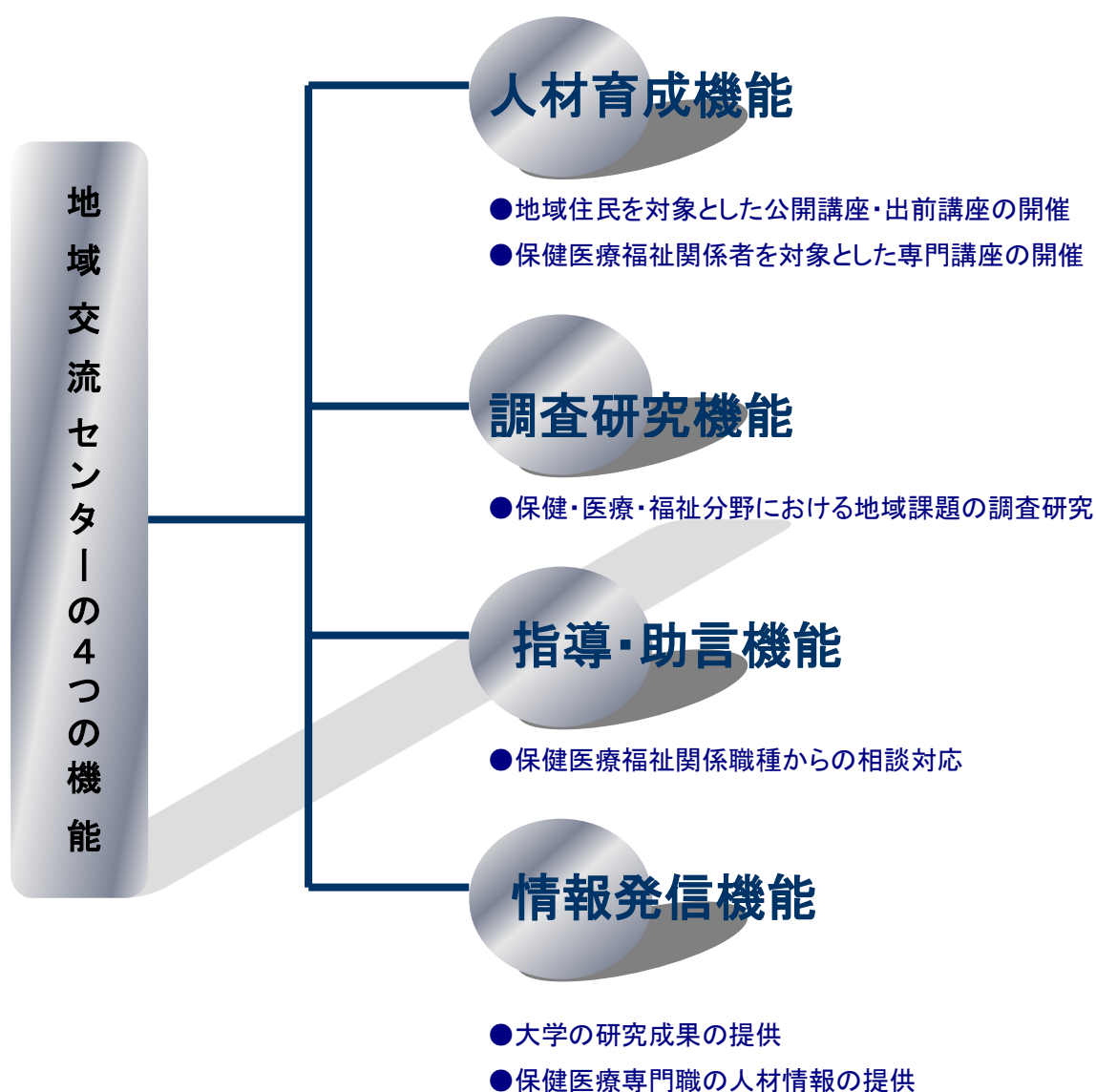
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1. 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2. 地域交流センターの 4 つの機能



※国際交流事業等で地域交流センターを紹介するための英文名称を、本年度 11 月 2 日の運営調整会議の承認を得、『EPU—Local Community Center (ELCC)』とした。

Ⅱ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 令和2年度第10回「ホームカミングデー」

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体・連携協力機関

コロナ禍のため日程を後期に延期し、学生祭と同日にハイブリッドでの開催とした。本学同窓会（木蓮会）総会や会食は中止となり、共催事業とすることは見送られた。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：窪田静准教授（地域交流センター員）

実行委員：野本センター長、地域交流センター員

看護師分野；島田教授、中平准教授、宮宇地講師

保健師分野；田中（美）准教授、奥田講師、入野講師

助産師分野；中越准教授、井上講師、伊藤助教、今村講師 瀧本助教

臨床検査分野；檜枝教授、佐川助教、細川助教

4) 事業内容

(1) 日時：令和2年10月25日（日）10：00～12：30

10：00～10：30 全体会・ 10：40～12：20 分科会

(2) 場所：医技大キャンパス

全体会；150 講義室 分科会；150・257・258・355 講義室

(3) 参加者数：60名（卒業生15名 在校生8名 合計23名 教員14名）

(4) 実施内容

＊本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けWEB開催となった。

①全体会：学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院説明会、教員の訃報と黙祷

②分科会：ゲストスピーカーを設けず、各分科会で創意工夫した。

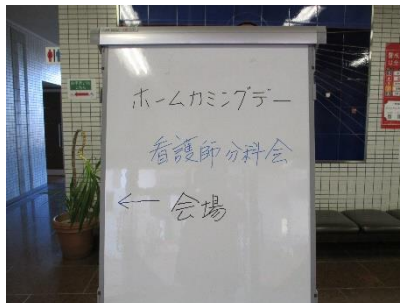
看護師分科会報告

日時：2020 年 10 月 25 日（日）10：30～12：00

場所：150 教室

参加者：卒業生 3 名 在校生（3 年生）2 名 合計 5 名

担当者：島田美鈴、中平洋子、宮宇地秀代



内容

卒業生 3 名は Zoom で参加、在校生 2 名は 150 教室にて参加した。

1. 10：30～11：30

構内紹介

教員と参加在校生 2 名が iPad で撮影しながら構内を紹介した。正面玄関から事務棟、図書館、実習室、食堂の順路で COVID-19 対策での変化を中心に説明した。途中で教職員や学生にも出演してもらい、EPU フェスティバル開催様子も撮影した。卒業生から「食堂をみたい」という意見があり、食堂をまわる予定はなかったが、急遽追加した。

2. 11：30～12：00

まず、5 名の参加者に自己紹介をしてもらった。そのあとに、在校生からの質問を中心にセッションをした。

質問の内容

- ・仕事やプライベートなど、最近はどのように過ごしているか
- ・国家試験の勉強をどのようにしていたのか
- ・進路先をどのように選択したのか など



事前に 2 年生 2 名も Zoom 参加の申し込みがあったが、当日は参加されなかった。はじめは音声が入らなかった参加者もいたが、設定をしなおしてもらうことで問題はなかった。事前に Zoom の設定確認と卒業年度と名前を入力を依頼しておく良かった。

保健師分科会報告

日時 令和2年10月25日（日）10:40～12:30

会場 257 教室

参加人数 11名 内訳 在校生：1名（3年生）、
卒業生：6名（県内5名、県外1名）
教員：4名

分科会の内容

開会

保健師就職状況報告

学会開催報告

野村美千江教授が学術集会長を務めた第8回日本公衆衛生看護学会学術集会（2020年1月8-9日、松山市総合コミュニティセンターにて開催）の映像を一部共有した。趣向を凝らした愛媛らしいおもてなしの様子が参加者の注目を集めていた。卒業生に学会参加を勧める機会となった。



領域の活動報告

2020年4月からのオンライン授業への取り組みを公衆衛生看護学の授業例を用いて紹介した。

卒業生へのエール 同窓会「木蓮会」役員

交流会

アイスブレイク（クイズ）

自己紹介、近況報告

先輩へのQ&A、フリータイム



卒業生は全員、自治体保健師であった。担当地区や事業に加えて、COVID-19による業務へ影響が報告された。育児休業中の卒業生のお子さんの「参加」もあり、和やかな雰囲気で進められた。同じ政令指定市の所属でありながら、今回の参加をきっかけにお互いが同窓生と知ったケースがあった。

記念撮影

閉会

総括

例年のような対面開催は、新卒の保健師が母校に帰る機会となり、同期会に近い雰囲気の中で教員が個々の近況を把握し、在学生在が初対面の先輩と直接交流できる利点があった。今回、オンライン開催となったことで、県外の卒業生や子育て中の卒業生が参加しやすく、新たなつながりが生まれる可能性に気づかされた。今後は、それぞれの利点を生かし、多様なニーズに対応した柔軟な企画が求められる。

助産師分科会報告

中越利佳 井上明子 伊藤美香 今村朋子 瀧本千紗

日時：令和2年10月25日 10:30～11:30 会場：258

参加人数：計7名—卒業生2名、助産学専攻科教員5名

内容：10:30～11:30 ZOOMによるフリートーク

令和2年3月に助産学専攻科を終了された2名の卒業生の参加をいただき、教員5名と嬉しい再会となりました。今年は、Covid19感染拡大防止のため、ZOOMでの分科会となりました。参加されたお二人の卒業生もお元気そうで、日々の助産業務に邁進されている様子を情報交換することができました。

とりわけ、Covid19の影響による産科医療施設の状況をお話ししていただき、医療現場のスタッフのご苦労と、妊産褥婦さんへの医療施設の対応について理解することができました。様々な制約を受けながらも出産に臨む産婦さんに寄り添い、ケアを続けている皆様を心から誇りに思います。まだまだわからないこと、不安なことも多いかと思いますが、妊産婦さんから信頼される助産師に成長されることを確信しています。

Covid19が収束した際には、皆様とお会いできることを楽しみにしていますね。



ZOOMによる近況報告・卒業生と教員の交流会

臨床検査技師分科会報告

檜枝美紀 佐川輝高 細川翔

日時：令和2年10月25日 10:30～12:30 会場：355

参加人数：計11名—卒業生3名、在学生5名、門屋同窓会長、臨床検査学科教員2名

形式：臨床検査学科教員2名及び在校生1名が355教室から参加した。残りの在校生4名、卒業生及び門屋同窓会長は学外の端末から参加した。355教室にはパソコンとマイクをそれぞれ2つ設置した。



←手前と奥にパソコンとマイクを設置した。

内容：①10:30～11:00 自己紹介と近況報告

参加した在校生は1,2年生で卒業生との面識がないことから、まずはお互いの自己紹介を行った。また卒業生から、仕事や新型コロナの影響等近況報告を聞いた。

②11:00～12:30 Zoomのブレイクアウトルームを活用したフリートーク

門屋同窓会長からメッセージを頂いた後、全体で歓談し、交流を深めた。その後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使って、在校生と卒業生混合のルームを作り、フリートークの時間を設けた。臨床検査学科教員はホストとして各ルームを訪問して会話に参加したり、状況を見てグループを再編成する等調整を行った。最後に全体で再び歓談し、和やかな雰囲気の中、分科会は終了した。

初めてのZoom開催であったが、ブレイクアウトルームを活用することでお互いの距離も近くなり、在学生も積極的に発言をしていた。また、容易にグループ編成や解除ができる点はZoomならではのであった。355教室の2つのマイクとパソコンスピーカーは必要な方だけをONにしていたが、ブレイクアウトルームに区切ってそれぞれのパソコンで会話が始まると、混線は避けられなかった。ブレイクアウトルーム機能で歓談を行う場合は、学内からの参加する学生の人数に応じて、部屋をいくつか確保することが好ましい。

5) 評価と課題

(1)ねらい・成果

コロナ禍により、木蓮会との共催中止、卒業生のリモート参加となった。また会期は後期に延期され、変則的な開催となった学園祭と web オープンキャンパスと同日開催となり、感染対策に留意しつつ教室や機材をシェアした。すべてが初めてづくしで困難を極めたが、地域交流センター員、分科会担当教員、学生祭側の学生委員会、学生自治会と協力し、無事に開催することができた。非常に少ない参加者であったが、アンケートには、少人数ならではの良さが寄せられた。

来年度の開催時期や開催方法についての見通しを立てることは難しい。

(2) 参加者アンケートの結果

1 回答者の所属			
卒業生	3 人	母数 15 名	
在校生	8 人	母数 8 名	
2 参加したきっかけ（重複回答可）			
	卒業生	在校生	
①STU メール	1 人	8 人	
②ホームページ		1 人	
③チラシ・ポスター		5 人	
④案内文書	2 人		
⑤教職員	2 人	1 人	
⑥同級生	1 人		
⑦先輩			
⑧後輩			
⑨その他			
3 参加したイベント			
①全体会		8 人	
②看護師分野分科会		2 人	
③助産師分野分科会		2 人	
④保健師分野分科会		2 人	
⑤臨床検査技師分野分科会		5 人	
4 参加したイベントの評価			
		全体会	分科会
①とても参考になった		3 人	9 人
②参考になった		5 人	2 人
③あまり参考にならなかった		0 人	0 人
④参考にならなかった		0 人	0 人

(3) 全体会・分科会の感想

- ・大学院について詳しく知ることができてよかった。
- ・久しぶりに先生方や同窓生とお会いできて楽しかったです。コロナでいつもの開催が無いのは残念でしたが、反対に、オンラインだと全国の皆と気軽に繋がれるのがよかったと思いました。
- ・就職のこととか聞きたいことに丁寧に答えて下さって、これから参考にさせて頂きたいと思います。
- ・すごく少人数だったので、自分らが聞きたいことを聞けたので良かったです。
- ・今働かれている保健師さんの生の声を聞けて、参考になりました。モチベーションも上がりました。ありがとうございました。
- ・年齢も働く場所も違う皆さんとオンラインという形で繋がることができ、とても良い時間となりました。違う場所で働く皆さんやこれから社会に出る学生さんのお話を聞いてまた明日からも頑張ろうという気持ちになれました。先生方にもお会いでき、とてもうれしかったです。ありがとうございました。
- ・臨床検査技師としてだけでなく他の分野でも活躍している先輩方の話を聞くことができ、とても貴重な時間だった。
- ・先生たちともいっぱい話せて良かったです。
- ・オンラインという形により、遠くの場所でも繋がれるというメリットがある反面、どのタイミングで自分が話したらいいのかお互いに探り合うような場面がありました。話すテーマや話す順番などを示して頂くともっと気軽に話ができただかなとも思いました。

2. 看護実践セミナー

1) 企画意図

医療の現場において、対象者やその家族との関わりに倫理的なジレンマを感じている医療関係者は少なくない。臨床において倫理的な課題に直面している医療関係者が、臨床倫理をナラティブな視点から考えるための研修会を企画した。特に、2019年末頃に報告された新型コロナウイルス感染症の拡大により、対象者とその家族、医療関係者などの関わりに多くの問題が生じている。このような問題を改善するための参考となる知識を得ることを目指す。

2) 事業内容

- (1) テーマ 「医療の現場における倫理的な関わりとは
ー 患者やその家族との向き合い方を考える」
- (2) 講師 金城隆展 氏（琉球大学医学部附属病院・地域医療部 臨床倫理士）
- (3) 日時 令和3年3月7日（日） 10:00～12:00
- (4) 場所 Zoom によるオンライン開催
(愛媛県立医療技術大学・225 演習室から配信)



オンライン配信の様子





閉会の挨拶

3) 参加者からのアンケート結果

年齢	参加者数	申込者数
20歳代以下	3	4
30歳代	8	10
40歳代	11	19
50歳代	23	33
60歳代以上	2	5
無回答	0	5
計	47	76

性別	人数
男性	67
女性	7
無回答	2
計	76

(申込時のみ)

職種	参加者数	申込者数
看護師	25	44
助産師	1	1
保健師	2	3
教員	9	10
学生	3	4
その他	理学療法士	1
	作業療法士	0
	病院の看護補助	1
	介護支援専門員	1
	介護福祉士	0
	社会福祉士	1
	介護職	0
	研究者	1
	MSW	1
	ケアマネジャー	1
	事務職	0
無回答	1	1
計	48	76

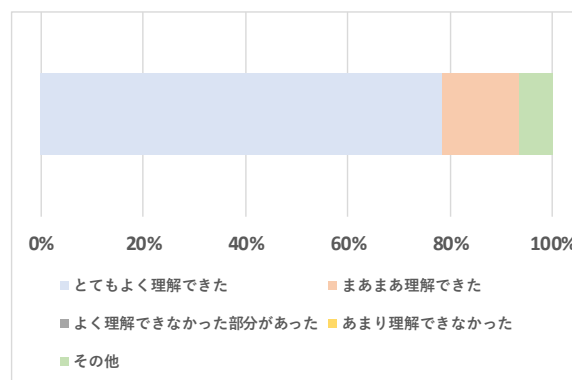
所属施設		参加者数
病院		27
行政機関・保健所・保健センター		2
訪問看護ステーション		2
看護教育機関・その他教育機関		12
その他	学生	3
	看護協会	1
計		47

(アンケート時のみ)

1. 今回のセミナーの内容について

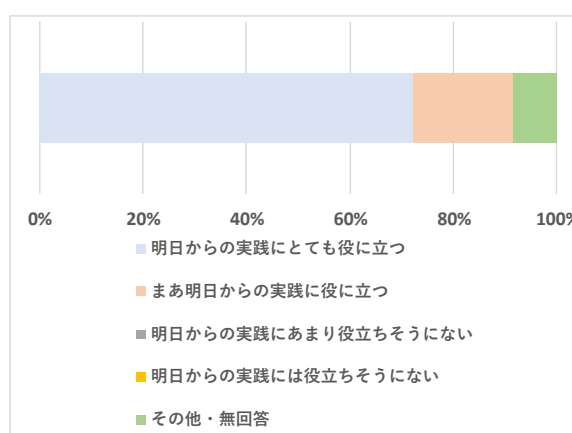
n=47

回答		人数
とてもよく理解できた		37
まあまあ理解できた		7
よく理解できなかった部分があった		0
あまり理解できなかった		0
その他	都合により参加できなかった	2
	接続が悪く途中で退出した	1
計		47



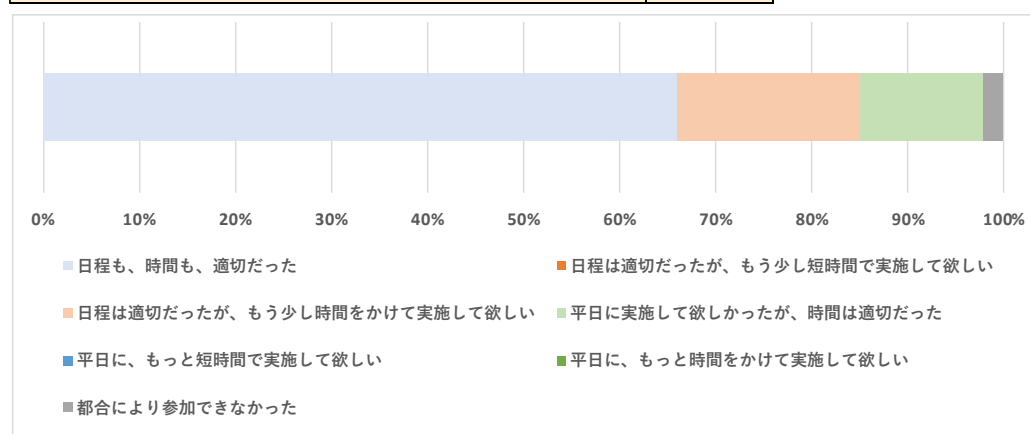
2. 今回のセミナーの役立ち度について

回答		人数
明日からの実践にとても役に立つ		34
まあ明日からの実践に役に立つ		9
明日からの実践にあまり役立ちそうにない		0
明日からの実践には役立ちそうにない		0
その他	無回答	1
	都合により参加できなかった	2
	接続が悪く途中で退出した	1
計		47



3. 今回のセミナーの開催日程・時間について

回答		人数
日程も、時間も、適切だった		31
日程は適切だったが、もう少し短時間で実施して欲しい		0
日程は適切だったが、もう少し時間をかけて実施して欲しい		9
平日に実施して欲しかったが、時間は適切だった		6
平日に、もっと短時間で実施して欲しい		0
平日に、もっと時間をかけて実施して欲しい		0
その他	都合により参加できなかった	1
計		47



4. 今回の看護実践セミナーの企画・運営に対するご意見・ご感想

○患者やご家族にどのように向き合っていくのか考える機会になった。患者が自分のことを話してくださることは当たり前のことではない。自分のことを開示してくださっていることに心から感謝し、真摯な姿勢で向き合う必要があると改めて思った。一言一言を大事に受け止め、その意味にともに向き合っていきたい。そのような医療者としての姿勢を学生にも伝えたい。

○わかりやすく倫理について教えていただき、良かった。

○初めて先生の研修を受講した。今までの看護を振り返り、またこれからどのように在りたいか考えることができた。心に響く話だった。

○とても勉強になったし、金城先生の講義の仕方にも注目させていただき、たくさん参考にさせてもらおうと思った。

○今回のセミナーを受講して、改めて看護が色々な学問とつながっていることを感じ、看護実践とは何か考え直した。考え続ける、悩み続ける謙虚さを持ち続けたい。

○共感し、心打たれる話だった。早速明日から実践していきたい。

○相談援助職としても今後の支援のあり方について改めて考えさせられる内容だった。その人の人生に向き合って支援することの大切さを学び直し、明日からの支援の方向性が見えてきたように感じた。

○もっと多くの職員への参加を促進する内容であったと反省している。受講者として学んだことを出来るだけ多くの職員、患者様に提供できるよう努力していきたい。

○zoom のため自宅から参加可能であり、気軽に参加できた。また、講演内容も胸にストンと落ちる内容で理解しやすかった。初期研修医の育成でも医療倫理の講義は欠かせない。どのように伝えたら良いか悩ましく思っていたが、ヒントをもらえた。声を聴くことの大切さ、専門性があるが故の相手無き献身性。ひとつひとつ胸に刺さった。

○今後も現場の看護師が元気になるように研修を企画していただきたい。

○遠方で参加しにくい人もいるので、今後も対面式と Zoom の併用で開催して欲しい。

○専門職として、謙虚に誠実に対象者と関わっていく姿勢を忘れないようにしたいと思った。医療者だけでなく、1 人の人間としての生き方を学ぶことができた。

○最後は涙が出た。心が洗われた気がして、また頑張ろうと思えた。

4) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の状況を見極めることが難しく、開催が年度末時期になったが、オンラインで開催することができた。看護職以外の参加者もあり、大変、好評を得られた。

広報として、県内の医療機関や本学の実習関連施設、保健所・保健センター、看護協会、看護基礎教育機関などに、案内用のポスターとチラシを送付すると共に、大学ホームページにもポスターを掲載した。申込みにはインターネットによる方法を採用し、申込みにかかる手間を軽減することができたが、受付完了メールに Zoom へのアクセス情報を送信できれば、さらに手間を省くことが可能であった。参加者の Zoom へのアクセスに関しては、詳細な説明書を作成して送信し、概ね問題なく参加していただけた。

3. 思春期保健スキルアップセミナー

第1回思春期保健スキルアップセミナー

1) 概要

(1) テーマ

地域と学校が連携した継続的な性教育の取り組み-性暴力予防のための性教育-

(2) 目的

思春期保健に関わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子供たちのコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が障害を通じた健康づくりの視点にそって他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(3) 対象者

思春期保健に関わる医療従事者、小・中・高等学校教諭、養護教諭等

2) 主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

・地域交流センター：野本センター長、伊藤美香、福井元展、藤田麻衣子

・愛媛県中予保健所健康増進課：倉田朋子、松浦仁美、麓由香里、

高森快海

4) 事業内容

(1) 日時 令和2年8月8日(土) 13:00～15:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟1階 116教室

(3) 参加者数 42名＋スタッフ4名

(参加者内訳)養護教諭：15 教諭：2 保健師：18 助産師：1

薬剤師：1 生活支援員1 大学教員：2 教育委員会：2

(医技大スタッフ)4名

(4) 実施者と実施内容

①「どこから始める思春期保健？」

話題提供者

・麓 由香里氏(愛媛県中予保健所 健康推進課 感染症対策係)

・大西 墨子氏(伊予市立港南中学校 養護教諭)

②講演 「子どもを取り巻く性に関する諸問題」

講師

・菅田英治先生(内子町立大瀬中学校 教頭)

③質疑応答・統括

(5) 参加者の反応：参加者アンケートの結果（アンケート回収率 97.6%）

①講演について

とても参考になった（82.9%） 参考になった（9.8%） 無記入（7.3%）

②自由記載より抜粋

- ・とても良い学びの時間になりました。先生方と連携が難しい、時間がとれない、新型コロナの関係で…とあきらめ気味に思っていたましたが、やっぱりこれは大事なことで今後何かしらやってみようという気持ちになりました。性の問題も以前よりも見えにくくなっているように感じますが、自分から子どもたちや保護者、先生方に関わっていくことが現状の把握になるのだと思いました。そこから何をすればいいのかを考えていくことができそうです。
- ・中予HCの地域と協働した取り組みについて、組織的課題として継続できるシステムづくりの大切さを学ぶことができた。菅田先生の話は、聴いていると胸が苦しくなるような事例も多く、被害者、加害者を出さない、連鎖を生まない、幼いころからの教育と丁寧な個別支援が重要と思った。そのためにも、色々な支援機関でつながっていくことが大切だと改めて思いました。
- ・自分を大切に他人も大切にする子どもを育てていきたい。性に関する指導は、毎年の積み重ねが大切だと実感している。関係機関等と連携しながら取り組んでいきたい。
- ・伊予市での学校と保健所との思春期教室の取り組みは良いと思う。他市町でもこのような取り組みができたと思う。
- ・今回の研修会の題にひかれ参加させていただきました。学校だけでなく、様々な職種の方が共に学ぶ会、本当に素晴らしいです。学校に持ち帰り、学びをつなげたいと思います。
- ・思春期、またそれより前から性教育を行っていくことの重要性、また愛着との関係などたくさんの学びがありました。これから働いていくうえで、他（多）職種と共働連携しながら性教育についてもっと知識理解を広めていけるよう努めたいです。
- ・愛着障害に関しては、妊娠から関わることでできる保健師にも大きな役割があると感じました。
- ・先生方の実践発表や菅田先生のご講演は大変参考になるものでした。自校での取り組みに活かしていきたいと思いました。また、様々なお立場の方のご意見やご質問をお聞きすることで、自身では見えていなかった課題を知ることができ、貴重な学びとなりました。
- ・年齢にあった性教育を継続していくことが大切だと感じた。妊娠期から関わっていける立場として家庭という環境に対し、継続して関わり、支援することで児童虐待を予防し、早期に発見することが大切だと感じた。
- ・学校での教育内容等とても参考になりました。病院でとなると問題がおこってからくる子どもたちの方が多いです。何か手を差し伸べていければと思います。

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から継続開催し、今回で第 8 回目の開催であった。今回はコロナ禍ということもあり、募集人数を制限しての開催とした。参加者には来校時の検温と、現在の症状の有無、直近 2 週間の状況確認のための質問票記載を求め、今回の研修参加に対する意識啓発を行った。質問票は 1 ヶ月間大学で保管することの同意もいただいた。マスク着用の上、手指消毒をしてから研修会場に入っていただくとともに席の間隔をあけ、常時換気を行い環境にも十分注意して実施した。中予保健所の保健師からの助言もあり、質疑応答時にはマイクの握る部分を消毒する配慮も行った。このような感染予防対策により、参加者には多少の不便さを感じさせてしまったかもしれないが、研修自体の感想としては 9 割の方が「とても参考になった」「参考になった」とのことであった。

まず、中予保健所の保健師と伊予市立港南中学校の養護教諭からそれぞれの取り組みについて話していただいた。そして、児相勤務の経験がある菅田先生から学校現場での性に関する諸問題および取り組みについて話していただいた。どの学校でも性に関する問題は少なからずあるようで、アンケートの自由記載からも養護教諭を初めとする学校関係者への反響が大きいように感じた。そして、伊予市の中学校のような継続した性教育の取り組みにも関心が向けられていた。また、思春期以前からの愛着形成の大切さについても多くの参加者が再確認できたようである。

今後希望する研修においては、性教育、思春期保健、LGBT、DV といった内容があがっていた。これらには、これまでに開催した研修テーマも含まれており、テーマ自体は今後検討していく必要がある。菅田先生が講演の始まりに、「このような講演ではほとんどが女性の参加者で、男性の参加が少ない」と言われた。今回の研修でも菅田先生以外で男性参加者は 1 名であった。このようなこともあり、テーマはもちろんであるが、男性の参加を促せるような検討も今後必要ではないかとの意見もあった。

第2回思春期保健スキルアップセミナー

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教室や性教育を実施するための体制づくりを行う。本研修では、性教育を幼児期から始める意義や重要性について学び、幼児期の保護者に向けた性教育の実践を報告することで、関係者の資質の向上を図ることを目的とする。

(2) 対象者

管内市町保健センター保健師、管内の保育園・幼稚園園長、主任保育士

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所 健康増進課

共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

企画者

愛媛県中予保健所健康増進課：倉田朋子、竹内竜美、松浦仁美、麓由香里、高森快海

愛媛県立医療技術大学：中越利佳、伊藤美香

4) 事業内容

(1) 日時 令和2年11月12日(月) 15:00～16:30

(2) 場所 中予保健所 学生実習室

(3) 参加者数 18名

(参加者内訳)市町保健センター担当者4名、管内保育士・幼稚園教諭7名、中予保健所5名、教育委員会1名、医療技術大学1名

実施者と実施内容

① 話題提供 「保育園・幼稚園 幼児期 性教育アンケート結果」報告

中予保健所健康増進課難病母子係 高森快海

② 講演 「幼児期の子どもの体といのちを守るための性教育」

愛媛県立医療技術大学 中越利佳

③ 実践報告「幼児期からの心を育む性教育～砥部町における実践から～」

砥部町保険健康課 福見早苗

④ 質疑応答



(4) 参加者の反応（アンケート結果より）

- ・性教育は心が生きる教育。自分も相手も大切にすること、心に響きました。
- ・性教育とは心と体を大切にできる一歩なのだとすることを強く学ぶことができた。
- ・自分自身が小学生の保健の授業まで性教育について学んだ経験がなく、どう幼児期から進めればよいか悩んでいたが、早期教育の大切さが思春期を迎えるまでにどう重要かを感じることができ良かった。
- ・年齢に応じた関わり方や伝え方、職員間の意識の差、継続的に行えるようにどう保育計画に取り組んでいくかに課題を感じている。
- ・まだまだ保護者への啓発や保護者理解が足りないと思う。幼教論の個人の知識も違うため、各幼稚園での実施を考えたい。
- ・保護者を巻き込んだの参加型の話し合いなどもしていけると、情報、関わり方の共有、統一感がとれやすいのではないかと、何かの行事で福見先生の話にあったように、保護者支援の方面でも進めていきたい。
- ・保健師や小学校養護教諭と話し合い、連携をとって取り組んでいきたい。小学校では性教育の参観日を実施しているため、各幼稚園での実施を考えていきたい。
- ・講演を受けるまで、タブー視していたり、見て見ぬふりをしていた部分があるが、様々なアドバイスを頂き、今から保育の現場でも生かしていきたいと思う。家庭の背景が複雑化している現場ですが、保育士としてできること（保護者への働きかけ）を行い、子どもが今のままでいいんだと肯定感を上げられるように努めていきたい。性教育＝生きる教育＝人権へとつながっていることを忘れないでいきたい。
- ・園生活において、常にあらゆる場面で性教育とまではいかないが向き合っていることであるが、今回の研修を受け、しっかり知識を身に着けどの教諭も自信をもって接することが大切だと思う。園だけでなく、保護者にしっかり伝えていくべきこと、保護者への啓発を自町でも取り組んでいきたい。

5) 評価と課題

第2回思春期保健スキルアップ研修会は、昨年の幼児期の性教育の研修会の反省をふまえ、幼児教育を実践している保育所、幼稚園教諭に参加を呼びかけ実施した。しかし、コロナ禍の影響で、保育現場で活躍している若い保育士の参加が難しく、管理者のみの出席となってしまった。しかし、幼稚園・保育園の管理者が幼児期の性教育の第1歩を何らかの形で行いたいという意志が明確化された研修会であった。今後は、各保育施設の性教育の取り組みを保健所、市町の保健センター、本学が支援できる体制づくりを検討していく。

4. えひめ高校生生体機能研究プログラム

＊本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。

5. 高校出張講座／ブックトーク&メディカルトーク

1) 概要

子どもの読書活動推進のための「ブックトーク」事業において、医療系進学を志す高校生達が将来を思い描きながら自ら進んで良書に触れていくことを目的とし、「メディカルトーク」を共催し、本学教員が講話を行った。

2) 実施主体

愛媛県立図書館

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立図書館：石川幸代、伊井友世

愛媛県立医療技術大学：野本百合子、窪田静、岸田直樹

4) 事業内容

愛媛県立今治北高等学校

(1) 実施日時 令和2年8月6日（木）13:30～15:30

＊メディカルトークは後半 50 分程度

(2) 実施場所 県立今治北高等学校 図書室

(3) 参加者人数 3年生徒 20 名

大半が看護師志望、作業療法士や理学療法士を目指す生徒が若干名

愛媛県立伊予高等学校

(1) 実施日時 令和2年10月20日（火）13:45～15:35

＊メディカルトークは後半 50 分程度

(2) 実施場所 県立伊予高等学校 生物室

(3) 参加者人数 1、2年生徒 20 名

1、2年生合同の「探究」の授業で、「医療」を選んだ生徒

(4) 実施者・実施内容(両校共通)

①実施者

ブックトーク：愛媛県立図書館 教育専門員 石川幸代先生

メディカルトーク：愛媛県立医療技術大学保健科学部 看護学科 窪田静

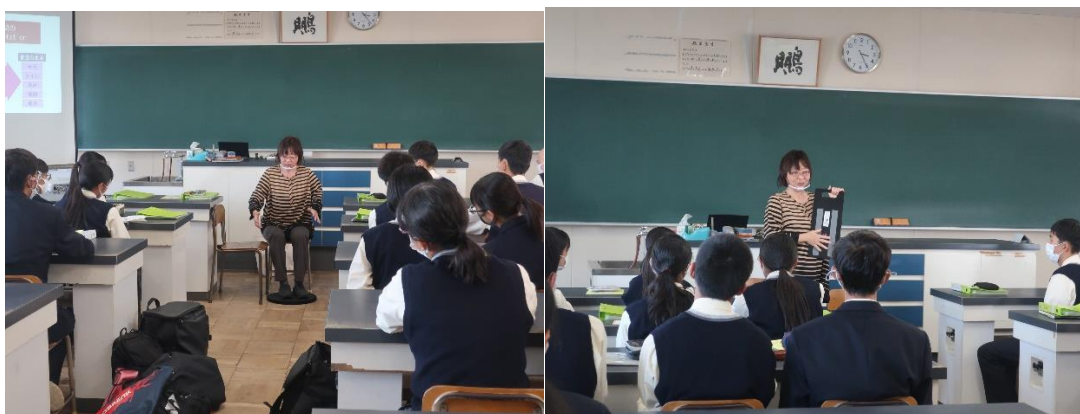
②実施内容

「寝たきり老人のいない国」デンマークとはどんな国か。デンマークの進んだ福祉用具は、日本の在宅ケアをどう変容させたか、またどんな問題が残されているのか。事例を話し、実物のデンマーク製福祉用具を持参し、使用方法をプレゼンテーションした。国際的な視点の大切さも伝えた。感染症対策を行った。



着替え用スライディングシートの紹介

<今治北高校 デンマーク製福祉用具の紹介>



回転盤のデモンストレーション

トランスファーボードの紹介

<伊予高校 デンマーク製福祉用具の紹介>

(5) 参加者の反応

昨年度と同じ担当者が、後続のメディカルトークと親和性のある書籍を選択してくださっていた。可搬性の良いローテクな「滑る」機能を持つ3種類の福祉用具を持参した。使い方を示すと、驚きの声があがり、深い感心を抱いた様子で、終了後質問に来る生徒もいた。

愛媛県立松山中央高等学校

(1) 令和2年10月22日(木) 14:30~16:30

(2) 愛媛県立松山中央高等学校

(3) 参加人数 2年生(医療系進学希望者)34名 教職員2名 合計37名

(4) 実施内容

[ブックトーク] 県立図書館 読書振興グループ 伊井友世 14:30~15:30

高校生が自らの現状を理解したり、将来を展望したりできる書籍6冊が紹介された。それらは次のような書籍であった。

- ①「自分の顔が好きですか？」(山口真美著・岩波書店 2016)
- ②「ニッポンのはたらく人たち」(杉山雅彦著・パイインターナショナル 2019)
- ③「正しいパンツのたたみ方」(南野忠晴著・岩波書店 2011)
- ④「サンドウィッチマンの東北魂」(サンドウィッチマン著・ニッポン放送 2020)
- ⑤「つるかめ助産院」(小川糸著・集英社 2010)
- ⑥「その手がおぼえている」(トニー・ジョンストン文 エイミー・ベイツ絵 落合恵子訳・BL出版 2019)

[メディカルトーク] 看護学科 教授 野本百合子 15:30～16:30

「ナイチンゲールの業績と職業としての看護～私の看護師経験とこれからの看護～」と題し、ナイチンゲールがクリミア戦争において果たした功績とともに、その後、自らが設立した「ナイチンゲールスクール」、すなわち看護師養成学校について紹介した。また、わが国の看護職養成教育の歴史についても紹介し、看護師としての経験に基づき、看護職の将来について、展望を述べた。

5) 評価と課題

県立図書館職員によるブックトークと本学教員のメディカルトークを組み合わせた話を提供することにより、医療職を目指す高校生が、自身を理解するとともに、医療職者としての将来を展望する機会を得ることができた。高等学校の担当教員から、生徒にとって有意義な時間となり、モチベーションアップにつながったとの感想をいただいた。今後も、継続した取り組みをする意義がある。

6. 麻生小学校児童の大学見学

＊本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。

7. 2020 サタデースマイル in ひろた「科学教室」

1) 趣旨または概要

毎年開催されている「サタデースマイル in ひろた」の中の企画のひとつとして科学教室を開催するものである。対象は、広田地域や山村留学センターの小学生・保育園児で、科学の面白さや身の回りにある科学を実感してもらう企画。希望があれば中学生も参加可能。夏季（7/9）と冬季（12/5）の2回開催。ちなみに「2020 サタデースマイル in ひろた」企画全体としては、広田（旧広田村地区）を好きになってもらう、広田での楽しい思い出をたくさん作ってもらう、という趣旨である。

2) 実施主体・連携協力機関

砥部町ひろた交流センター

3) プロジェクトメンバー

佐川 輝高（愛媛県立医療技術大学）

林 明（ひろた交流センター）

4) 事業

（2）日時

第1回 令和2年7月9日（土）9：30～11：30

第2回 令和2年12月5日（土）9：30～11：30

（3）場所

砥部町ひろた交流センター

（4）対象者と参加者数

広田地域や山村留学センターの小学生・保育園児

第1回 16名（2年生1名・3年生1名・4年生4名・5年生6名・6年生5名）

第2回 14名（4年生4名・5年生5名・6年生5名）

山村留学センター職員、砥部町ひろた交流センター職員

（新型コロナウイルス感染症下のため山村留学センター児童のみ参加）

（5）実施者と実施内容

担当者 佐川 輝高

第1回「音を目で見よう」「いろいろな紙飛行機」

①「音を目で見よう」

タピオカストロー、発泡スチロールビーズ、ガーゼ、発泡スチロールボードを材料にして、自分の口から発したが音を波形として見る装置を作製。音が波であること、音の高さと波の数や形の関係、耳の中の音を聞く構造の秘密を体験した。電子オルゴール、フィルムケース、ビーズを材料にして、音楽と共にビーズが躍るおもちゃを作製。音楽のエネルギーを体験した。

②「いろいろな紙飛行機」

羽ばたきをする飛行機、円筒形の飛行機、常に進行方向を変える飛行機、いつまでも飛び続ける飛行機などを作製し、空気と飛行機の関係を経験した。

第2回「光の飾りを作ってみよう」「魔鏡作り」「色々なシャボン玉を作ってみよう」

①「光の飾りを作ってみよう」

釣り糸、時間とともに色が変わっていく LED、ストローを材料に光の花束を作製。何色の光が釣り糸の中で遠くまでよく光ったかを観察。これにより、光回線の秘密を経験した。

②「魔鏡作り」

一つ前に体験した光の不思議に関連して、魔鏡を作り、もう一つ光の不思議を経験し、古墳時代の人の気持ちを体験した。真鍮板、釘、液体ピカール（液体研磨剤）を用いて、裏に模様のある金属板鏡を作製。これに光をあて、反射光を観察すると、ガラス製の鏡と違って、反射光に模様が現れることを体験し、古代の鏡の役割を想像した。また、ガラスの鏡が使えるようになる前の時代には、どのような鏡を使っていたのかを実感した。

③「色々なシャボン玉を作ってみよう」

光があたると透明だけではなく、綺麗な虹色に光るシャボン玉で遊んだ。コロナ禍で、子ども達が身体を動かして遊べるイベントがほぼ無かったので、科学の学習というよりは、思い切りはしゃぐことを主眼において実施したが、気付いたことや自分なりの工夫を問いかけてくるなど、こちらが考えていたより、遥かに自己学習的要素が大きいものとなった。当日は、家庭用食器洗剤を主成分としてシャボン玉液を作製。これに、砂糖、グリセリン、ポリビニルアルコール（洗濯のり）などを加えるなど、また、シャボン玉を発生させるための器具を種々用意し、通常のシャボン玉、割れないシャボン玉、大量のシャボン玉、大きなシャボン玉、長いシャボン玉等色々なシャボン玉が作れるように準備した。



5) 評価と課題

2020 サタデースマイル in ひろた「科学教室」を受託してから本年度で8年目の開催となり、子ども達は楽しみにしてくれているが、本年は新型コロナウイルス感染症関連の影響で参加者が山村留学の子ども達のみとなってしまった。地元の小学生は同数おり、また、中学生の希望者がいることもあるので、例年であれば2倍以上の参加者が期待されるが、本年は如何

ともしがたいところである。いずれにしろ、参加者は科学を楽しんでくれているのでその点に関しては成功であると言える。現在の最大の課題は、この事業を講師として引き継げる人材がいないことである。

Ⅲ 調査研究

＊本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。

、

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
野本百合子	県立4病院研修 ラダーⅢトライ 「看護研究の基礎」	県立4病院研修の「看護研究の基礎」に関して、研修内容企画段階から相談にのるとともに、研修会講師も担当し、提出された研究計画書に対する助言・指導を行った。	県立4病院看護師（4年目～10年目）
野本百合子	県立今治病院 院内における 看護研究支援	県立今治病院において、研究に取り組む看護職者に対し、研究の進め方及び抄録・発表原稿のまとめ方などについて助言するとともに、院内研究発表会にも参加し、講評を述べた。	県立今治病院 看護師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理 局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開（基礎編）」研修について企画運営から携わり、研修講師として研修を行った。次年度も、3年目以上の看護師を対象とした「看護過程の展開（基礎編）」の講師として企画からかわっていく予定である。	県立病院 看護職員
永井さつき	愛媛県看護協会	ファーストレベル・セカンドレベルの研修に参加し、グループワークでの助言や受講生の発表に対する講評などを行った。	県内看護師
豊田ゆかり	愛媛県	「乳幼児健診 Skills Study 研修会」の企画、グループワーク助言、アンケート調査助言等を年3回実施。次年度も3回継続の予定	県内保健師
中越利佳 今村朋子 井上明子 伊藤美香 瀧本千紗	八幡浜地区施設事務 組合消防本部	八幡浜管内において、分娩取り扱い施設がないことから救急隊員が分娩場面に立ち会うこともあるため、基本的な分娩の機序と介助の方法について企画し、講義・演習を行った。	八幡浜地区施設事務組合消防本部 救急隊員
野村美千江 入野了士 田中美延里 奥田美恵 窪田志穂 長尾奈美	愛媛県医療対策課	県内市町及び保健所等に勤務する保健師等を対象とした保健師スキルアップ研修会（保健活動の評価・まとめ方と学会発表に向けたプレゼンの講義演習、活動報告作成のコツ）について、企画と運営をした。	医療対策課 地域看護係

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	今治市・上島町社会 福祉協議会	今治圏域を対象とした地域包括ケア推進事業の専門職育成 研修のフォローアップについて、地元の社会福祉協議会の 企画への助言・運営に協力、実施した。	保健師、社会 福祉士、生活 支援コーディネーター
田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県医療対策課	令和２年度愛媛県地域保健保健師等研修会について企画・ 運営についての相談を受け参画した。	医療対策課 地域看護係
田中美延里	西条保健所	令和２年度第３回地域保健保健師等研修会の企画に関する 相談を受け、支援した。	保健所企画課 保健師
窪田静	日本看護技術学会	気持ちよさをもたらすケアの技Ⅰ 熱布バックケア+腹臥位 =「ワンセットケア」 2020年11月22日(日) 13:30～15:30 どうやってやるの? の zoom 開催の企画・運 営について、講師選び等で参画した。	技術研究成果 検討委員会・ 研究活動推進 委員会
窪田静	日本看護技術学会	気持ちよさをもたらすケアの技Ⅱ ワンセットケアを実施 して実践を語り合おう! 2021年1月23日(土) 13:30～15:00 開催の zoom 開催の企画・運営に参画した。	技術研究成果 検討委員会・ 研究活動推進 委員会
入野了士	宇和島保健所	令和２年度宇和島保健所 BIGDATA 研修会について、企画・運 営についての相談を受け参画した。	宇和島保健所 健康増進課
入野了士	宇和島保健所	令和２年度第２回地域保健保健師等研修会について、企 画・運営についての相談を受け参画した。	宇和島 保健所企画課
入野了士	愛媛県健康増進課	令和２年度ビッグデータ活用研修会ワークショップセミナー について、企画・運営についての相談を受け参画した。	愛媛県 健康増進課
入野了士	中予保健所	令和２年度松山圏域地域包括ケア推進のための研修会につ いて、企画・運営についての相談を受け参画した。	中予保健所
豊田ゆかり 窪田志穂	愛媛県中予保健所 愛媛県発達障がい者 支援センター	1歳6か月児・3歳児健康診査の健診基本知識などについ て参加者らが書体的・相互に学び合うことを目的とした 「乳幼児健診 Skills Study」について、学術的立場から企 画・運営の支援を行った。 次年度は第３回～第６回の企画・運営に参画予定である。	中予地区の自 治体に所属す る保健師

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援対象者
佐川輝高	砥部町 ひろた交流センター	砥部町ひろた交流センター（砥部町）主催「サタデースマイル in ひろた」の中の企画のひとつとして、毎年、科学教室の立案から開催まで全てを依頼され実施している。本年度は計2回（7月9日、12月5日）実施した。来年度も同様に実施する計画となっている。	砥部町広田地区 児童・生徒
佐川輝高	伊予理科教室 実行委員会	毎年実施している伊予理科教室実行委員会主催の夏休み理科教室（計5回）の立案、助成金申請、講師を依頼され実施した。子どもゆめ基金より助成金の獲得決定までを行えたが、コロナ禍の影響で実施することは出来なかった。	砥部町 児童・生徒
檜枝美紀	香川県みどり整備課	みどりとのふれあいを通して、みどりに対する理解を深めるために行われている事業・みどりの学校の講座の一つ「五色台自然学校」の運営に、8月から12月まで講師兼スタッフとして携わった。今後も継続する予定である	一般市民
山岡源治	瀬戸内血液研修会 世話人会	第9回瀬戸内血液研修会の世話人として、研修会の企画およびRCPCの症例解説を行った。今回はWeb研修会とし、Web上で血液標本の動画を公開し、症例の事前アンケートなど新しい企画を試みた。	中四国の臨床 検査技師
保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援			合計件数 21件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
井上明子	助産師国家試験	全国助産師教育協議会より、第104回助産師国家試験適否判定の依頼があり、午前の1～5間について適否判定を行った。	全国助産師教育協議会中国四国地区、九州沖縄地区 会員校の代表者 43名	全問題中2問が不適切と判断され、厚生労働省に提出された。
入野了士 長尾奈美	新居浜市健康プログラム事業	令和2年度に実施した左記事業の評価方法について素案を提示するとともに、実施結果データを基に評価を行った。	新居浜市の健康づくりに関わる関係職種 12名	事業評価報告書として作成
入野了士	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり事業	介護保険データによる要介護認知症に関する集計、レセプト分析、特定健康診査の項目別集計をし、評価を行った。	愛媛県の健康情報分析に関わる5名	事業評価報告書として作成
保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言				
			合計件数	3件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った。	面談（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和2年4月から令和3年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和2年4月から令和3年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	県立中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和2年4月から令和3年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
島田美鈴	看護教員	倫理審査委員会発足前の過去の研究を公表する場合、どのような方策があるかという質問に対して、実施した倫理的配慮について詳しく記載する必要があることを伝えた。	電話
島田美鈴	看護教員	コロナ禍における研究調査の現状についての質問に対して、協力施設の意向に従って、調査延期等の対応を行っていることを伝える。	電話
島田美鈴	看護教員	コロナ禍において、臨地実習に行けない時の工夫についての質問に対して、学内実習での工夫について伝えた。	電話 ・メール
島田美鈴	看護系大学教員 （看護職者ではない）	コロナ禍における臨地実習の現状についての質問に対して、本学における現状を伝えた。	電話
島田美鈴	看護師	博士後期課程受験についての相談があり、自身の経験を伝えるとともに現役の博士課程の学生を紹介した。	面談
松井美由紀	看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	メール
松井美由紀	看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	直接
永井さつき	保健師	地域包括支援センターで仕事をしたいとの相談があり、勤務条件等を聞き希望に沿えるよう事業所と調整し、紹介した。	面談・電話 ・メール

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
永井さつき	一般	MCI が疑われる高齢者の家族に対し、状況を聞いたうえで受診を勧め、介護保険サービスの利用について助言した。	面談
宮宇地秀代	看護師	大学院進学に関して相談があり、受験や進学してからの生活、研究活動の現状や対策について伝えた。	面談
高橋博子	看護師	事例検討資料の内容について相談を受け、助言を行った。	メール 面談
豊田ゆかり	看護師	医療的ケア児の家族の生活に関するデータ分析指導	来校
豊田ゆかり	保健師	医療的ケア児の在宅生活に向けての論文作成指導	来校
中越利佳	一般	娘さんの分娩施設の選択に関する相談を受け、情報提供を行った。	電話・メール
野村美千江 入野了士	専門職：保健師	研究会発表に係る抄録の内容について相談を受け、助言を行った。（2名）	訪問
田中美延里	専門職：保健師	グループ支援に関する相談を受け、参考資料を提供した。	メール
窪田静	専門職：看護師 （県内の病院）	遷延性難治性褥瘡の原因アセスメント、治癒を導く生活環境設定・福祉用具選定と、ケア及びリハビリテーションプログラムの策定と実践指導。	訪問
窪田静	専門職：看護師 （東京都の病院）	自力で移動が可能な covid-19 患者が入院する病棟勤務の看護師への、スピラドゥを用いた proning と深部静脈血栓予防の技術指導。	郵送 メール zoom
窪田静	専門職：看護師 （千葉県のある病院）	鎮静下で人工呼吸器等を装着している covid-19 患者が入院する ICU 勤務の看護師への、スピラドゥを用いた proning と深部静脈血栓予防の技術指導。	郵送 メール zoom
奥田美恵	専門職：保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	訪問
入野了士	専門職：保健師	研究会発表に係る抄録の内容について相談を受け、構成等を含めて助言を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 （香川県の病院）	日本検査血液学会の一般演題について相談を受け、指導を行った。	訪問
保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応			合計件数 26 件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害 者を支える会(家 族会)「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1 回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との 情報交換、相談支援をしている。	顧問として 相談、助言
野本百合子(総 括・企画・運営) 岡田ルリ子・大 野祐子(企画・ 運営) 徳永なみじ・谷 本淳子・森敬 子・香川里美 (運営)	愛媛県看護教員 継続教育研修 (愛媛県下の看護 職養成教育機関 に所属する教員)	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段 階から関与し、研修会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3回にわたり、研修会開 催時の運営にあたった。	・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・ 調整 ・研修会でのファンリ テータ・司会 ・会場の調整・提供
中越利佳	エンブリオ愛媛	妊娠葛藤や妊娠継続に向けた支援、啓発活動を行う活動。 1 円募金を通じて、上記の活動の支援を展開。	会員として 活動に参加
田中美延里	フリー保健師 ネットワーク	・愛媛県内在住のフリーランスの保健師や在宅保健師の SNS グループ・ ・互いの活動や自己研鑽に役立つ情報を共有している。	オープン参加の研修 会情報の提供
窪田静	呼吸を楽にする ワンセットケア プロジェクト チーム	川嶋みどりのよびかけにより「熱布バックケア」と 「腹臥位」も合わせた「呼吸を楽にするワンセットケ ア」の啓発・普及を実施している。複数の看護系大学 の研究者、covid-19 患者が入院する病棟勤務の看護 師、メーカーが参加。	スピラドゥを用いた proning の技術開発 と指導、教材作成
患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援		合計件数	5 件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	理事・評議員・学会誌査読委員 大規模災害支援 事業委員会委員長 中国・四国地方会 運営委員
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	代議員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	日本リハビリテーション看護学会	リハビリテーション看護学の発展に寄与することを目的とする。 学術集会の開催、学会誌の発行、等。年に1件程度、論文査読を担当。	学会誌査読委員
中西純子 島田美鈴 越智百枝 中平洋子 奥田美恵	高知女子大学 看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員
中西純子	看護職員確保・県内 定着推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成28年より設置された。	協議会委員
中西純子	愛媛県国民健康保険 運営協議会	市町村国保の安定的な財政運営や効率的な事業の確保等に関し審議する	委員 (公益代表)

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	愛媛県医療費適正化 計画推進会議	医療費適正化計画の策定、見直し、計画の進捗状 況、評価に関すること、医療費の調査及び分析に関 すること、等	委員 (学識経験者)
中西純子	高知県立大学看護研 究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどう か、外部委員として参加	外部委員
中西純子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及等の事 業の発展を図り、以って公衆衛生の増進に寄与す る。	理事
中西純子	大学基準協会大学評 価委員会	大学基準協会が実施する大学の適合についての外部 評価。本年度は分科会の主査を務めるとともに、全体評 価の委員も担う。	評価委員・主査
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するととも に、女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健の向 上に寄与することを目的とする。	常任理事(広報、 学術、がん対策担 当)会報編集委員
草薙康城	日本妊娠高血圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を 図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とす る。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医 の認定を行う。	委員
草薙康城	愛媛県生活習慣病予 防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	愛媛県 産婦人科臨床セミナー	愛媛県内における産婦人科医師に対する臨床的な支援 を行う。	世話人
草薙康城	愛媛県医師会 医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会に 加わる。	支援医
草薙康城	順風会精度管理委員	がん検診、特定健診の精度管理を行う。	精度管理委員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会 愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育 研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調 査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員 候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	愛媛県 国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会	都市計画法第 78 条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員
鳥居順子 入野了士	愛媛県ビッグデータ 活用県民健康づくり 協議会、事業分析ワ ーキンググループ	愛媛県の健診・医療・介護に係る客観的なデータに基づく全県的な疾病予防や健康づくり等を推進し、健康寿命の延伸、医療費の抑制等をはかるために設置されている。 県ビッグデータの分析, 検討, 資料化を行った。	委員
金澤 知典	一般社団法人 電気学会知・技の伝 承と複合現実型実応 用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの五感センシング、マイニング、モデリング、レンダリング、インタラクション、訓練・伝承法や、新たな活用法等といった、知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員
仲渡江美	日本赤ちゃん学会	総合的な学問領域としての「赤ちゃん学(Baby Science)」の進歩普及を図り、子どもの健全な発達に寄与する。主な事業は、学術集会および公開シンポジウムの開催、機関誌およびその他の刊行物の発行、会員による共同研究、関連団体との協力。	評議員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子 岡田ルリ子	愛媛県 准看護師試験委員会	保健師助産師看護師法第 25 条の規定による准看護師試験委員として、試験問題や行政処分等にかかわる事項を協議する。	委員
野本百合子	公益社団法人 愛媛県看護協会	本協会は、愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	理事(教育担当) 第 40 回愛媛看護 研究学会実行委 員
野本百合子	公益社団法人 日本看護科学学会	本法人は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的とし、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動、その他本会の目的達成に必要な事業等の事業を行っている。	代議員
野本百合子	一般社団法人 日本看護学教育学会	本学会は、看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与することを目的とし、学術集会の開催、学会誌の発行、看護学教育に関する研究および情報交換、研究助成、看護に携わる者の人材育成、国内外の看護学教育に関連する諸組織との連携等の活動を展開している。	査読委員
野本百合子 田中美延里	千葉看護学会	本学会は、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしてい く研究へと推進することを目的とし、現実の諸問題を解 決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会 員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する 種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進すること を目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発 をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会 活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同 参画センターの管理運営を行っている財団の活動や 予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役 割を担っている。	評議員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	えひめ女性財団	えひめ女性財団が実施している研究助成事業の選考にあたり、審査員として、研究計画及び成果の活用性について、意見を述べた。	研究助成審査員
野本百合子	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	評議員
徳永なみじ	新人職員研修推進協 議会 (愛媛県看護協会)	本協議会は、県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置され、新人看護職員の研修体制及びや指導者の育成のための検討や研修会を開催している。	委員
徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、学術集会の開催、学会誌の発行、研究の促進、日本学術会議との連携等の活動を行っている。	評議員
徳永なみじ	一般社団法人 日本看護技術学会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、学術集会の開催、学会誌の発行、研究の促進、日本学術会議との連携等の活動を行っている。	学会誌査読委員
島田美鈴	高知女子大学大学院 がん看護学領域修了 生の会 『アストラル』	・がん看護の質向上のための自己研鑽、情報交換および修了生のネットワーク作りを目的する。 ・学習会年間計画	副委員長

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
越智百枝 野本百合子 豊田ゆかり 島田美鈴 枝川千鶴子 中平洋子 中越利佳 岡田ルリ子 徳永なみじ 高橋博子 仲田琴美	日本看護研究学会 第 48 回学術集会	日本看護研究学会は、看護の発展に寄与し、その学会の企画・運営を勤めることで、看護学発展に貢献する。	企画・実行委員
松井美由紀	日本看護研究学会 第 48 回学術集会	日本看護研究学会は、看護の発展に寄与し、その学会の企画・運営を勤めることで、看護学発展に貢献する。 また実行委員長として学術集會長の補佐の役割を担う。	実行委員長
松井美由紀	愛媛県 がん診療連携協議会 がん看護専門部会	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム 企画・実施・運営および評価をした。	企画委員
永井さつき	愛媛県看護協会 看護管理者教育委員会	・認定看護管理者教育課程 ・フォローアップ研修の企画・実施・評価に関するこ と ・その他看護管理者研修全般に関すること	委員
江崎ひろみ	日本健康体力栄養学会	体力栄養の知識と技術の進歩・普及発展のために、 体力と栄養の関係を研究・研修し、その成果を健康 を目指した運動及び栄養の実践活動に応用し、国民 の健康増進及び成人病の一次予防に貢献する。主な 事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行をした。	評議員
徳永なみじ 今村朋子 坂元勇太 高橋博子 長尾奈美 仲田琴美 大野祐子	愛媛県立医療技術短 期大学・愛媛県立医 療技術大学・大学院 同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発 展に寄与することを目的としている。理事として、 総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理 事会の開催および運営にあたっている。	理事

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
豊田ゆかり	日本小児看護学会	小児看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進である。	学会抄録及び学会誌論文査読委員
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾患病児等地域支援協議会	小児慢性特定疾病児童等が成人後に自立することができるよう、地域における支援内容等について検討・協議する。	委員長
豊田ゆかり	愛媛県 介護保険審査会	介護保険制度で要介護認定など市町村が行った行政処分に対する不服申立の審理・裁決を協議する。	委員
豊田ゆかり	松前町 介護給付等審査会	松前町の介護保険給付に関して一次判定結果に基づき二次判定を審査会で協議する。	委員
中越利佳	日本看護連盟 愛媛県支部	・年間計画の立案実施 ・研修会の企画、運営	オブザーバー
井上明子	全国助産師教育協議会	・ニュースレターNo92 号の企画・執筆依頼・編集・ 発刊	広報委員会 ニュースレター班 リーダー
井上明子	全国助産師教育協議会	・マンスリーメール作成・配信(8月, 2月)	広報委員会委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会	評議員
野村美千江	四国公衆衛生学会	四国4県の関係機関の有機的連携を図り、学会を開催することにより調査研究・知識の普及など公衆衛生の増進に寄与する。	幹事・ 論文査読委員
野村美千江	日本看護協会	生活習慣病等重症化予防における活動モデルの創出に関する検討委員会	委員長
野村美千江	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の質向上および県民の健康な生活の実現に貢献する	理事(副会長、 保健師職能委員長)
野村美千江	松山市 社会福祉審議会	松山市における福祉行政施策や事業の実施・評価について協議する。	委員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	松山市 保健所運営協議会	保健所が管内の地域保健対策の中心的機関として企画調整等の機能を果たし、医療・福祉との連携や包括的な健康づくりを推進できるよう専門家として意見を述べる。	委員
野村美千江	砥部町 総合計画等審議会	第二次砥部町総合計画の進捗状況の審議に、町内の高等教育機関代表として参加し意見を述べる。	委員
野村美千江	砥部町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会	砥部町高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定にあたり、現状の課題分析、目標・具体策に対し意見を述べる。	委員長
野村美千江	砥部町 国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見 具申等を行う	会長
越智百枝	大学基準協会大学認証評価委員会	大学の適合を審査する評価委員。1年間かけて担当した大学の適合を審査する。	評価委員
越智百枝	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。計画の進捗状況を実施状況から査定し、来年度の計画について意見を述べた。	委員長
越智百枝	愛媛県 精神医療審査会	平成26年8月より審査会委員の委嘱を受け、毎月1回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。退院請求のあった入院患者の聞き取りを行い請求内容の妥当性について審査を行った。	委員
越智百枝	松山市社会福祉施設整備審査会	平成29年4月より委嘱を受け、申請書類の審査を行った。	委員
越智百枝	日本看護研究学会専任査読員	日本看護研究学会選任査読委員として学会発表抄録の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
越智百枝 中平洋子	日本精神保健 看護学会	精神保健看護学の発展をはかり、広く知識の交流に 努め、もって人々の精神の健康と福祉に貢献するこ とを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を 行った。	査読委員
田中美延里	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の 4 領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研 究、実践、教育を追究していく学会。	代議員・学会誌 査読委員
田中美延里	日本ルーラルナース ィング学会	へき地における看護の研究を推進し、日本における へき地看護学を確立・発展させることをとおして、 へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的 とする学会。	評議員・学会誌 査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並 びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市健康増進計画 推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意 見聴取を行う。	委員
窪田 静	三輪書店	1 年間に発行された作業療法ジャーナルを論評し、 企画を提案する。	編集同人
窪田 静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会・ポジショニング班員とし て、エビデンスに基づく看護技術の啓発・普及活動 に従事した。	班員
窪田 静	一般社団法人日本リ ハビリテーション工 学協会	法人の社員として議決を行う。主な内容は、入会・ 除名、役員の選任・解任、役員報酬額、各事業年度 の事業報告及び決算報告など。	代議員
中平洋子	愛媛県精神障がい者 地域移行支援協議会	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会委員として 委員会に参加した。	委員
中平洋子	伊予市自殺対策計画 策定審議会	誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめ ざし、伊予市の自殺対策計画を策定する審議会	副委員長
中平洋子	松前町障害者基本計 画策定委員会	松前町第 6 期障がい福祉計画・第 2 期障がい児福祉 計画の策定。	委員
奥田美恵	松前町国民健康保険 運営協議会	令和 2 年度松前町国民健康保険運営協議会委員とし て松前町国民健康保険の適正な運営を図る。	委員

氏 名	委員会や 団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
奥田美恵	砥部町健康づくり計画食育推進計画策定委員会	砥部町職員・関係機関・地域住民の代表者とともに砥部町健康づくり計画及び食育推進計画を策定する。	砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員
入野了士	ビッグデータ活用県民健康づくり事業分析ワーキンググループ	健診・医療・介護のビッグデータに基づく全県的な疾病予防・健康づくり事業等を進展し、健康寿命の延伸、医療費の抑制を図るため、県ビッグデータの分析、検討、資料化を行った。	委員
入野了士	全国保健師教育機関協議会 教育課程委員会	看護師教育における地域看護学教育に関する検討結果の周知、保健師教育評価指標の改訂を行った。	委員
入野了士	新居浜市健康プログラム事業実行委員	新居浜市の就労層の運動習慣の定着を目的とした健康プログラム事業について、事業所の健康づくり活動との連動について検討するとともに、新居浜市による効果的な実施に協力した。	委員
檜枝美紀	公益財団法人星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員
檜枝美紀	独立行政法人日本学術振興会・特別研究員等審査会	特別研究員制度は、我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図ることを目的とする事業である。	書面審査担当専門委員
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動している。	評議員
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	・愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。	精度管理専門委員会委員

高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	・臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立 ・中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員
高田智世	(社) 愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、精度管理を実施した。	会誌編集委員
高田智世	愛媛県科学技術振興 会議衛生環境評価専門部会	愛媛県試験研究機関が実施する試験研究課題の外部評価を行う。	衛生環境評価専門部会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	・松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年 1 回出席した。	精度管理専門委員会委員
行政や各種関係団体の理事・委員等の活動 合計件数 94 件			

6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱されたボランティア活動等）

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
田中昭子 永井さつき 高橋博子	愛媛県保健福祉 部 社会福祉医療 局 医療対策課	新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養に係る看護 職員の派遣	新型コロナ 感染症 軽症者等
井上明子	愛媛助産師会	年に1回発行されるひめじょ通信のインタビューに協力し た。（アドバンス助産師の更新における内容）	助産師
野村美千江 越智百枝 奥田美恵 入野了士 窪田志穂 坂元勇太	愛媛県・松山 市・愛媛県立医 療技術大学の三 者協定による応 援派遣	新型コロナ感染症の急激な拡大（第三波・第四波）による保 健所業務圧迫のため、松山市保健所の支援を行う。 ●第三波の時期 派遣期間：令和3（2021）年1月11日（月祝）～17日 （日）、金曜日を除く毎日2名 業務内容：積極的疫学調査の実施ならびにその補助 ●第四波の時期 派遣期間：令和3（2021）年3月31日（水）～ 毎日2名 業務内容：自宅療養者および濃厚接触者の健康観察（電話 相談）	一般住民
その他の活動		合計件数	3件

V 学生の 地域交流活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績（令和3年2月現在）

ボランティア登録数は個人登録が62名、団体登録が6団体（手話サークル Sign、STS サークル、学生赤十字奉仕団、Peer サークル、医技タット、フラサークルティアレ）であった。CCVID-19の影響により、今年度の外部団体からのボランティア募集要請、ボランティア活動実績共に0件であった。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書に掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

* 本年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受け、大学内への立ち入りが制限された期間が長くまた「集まる」こともできなかったため活動できなかった。

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～3月 10：00～11：00

開催回数：年間8回 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、開催回数を削減した。

利用者：砥部町住民

利用人数：15人程度/回、延べ人数120人

<活動の様子>



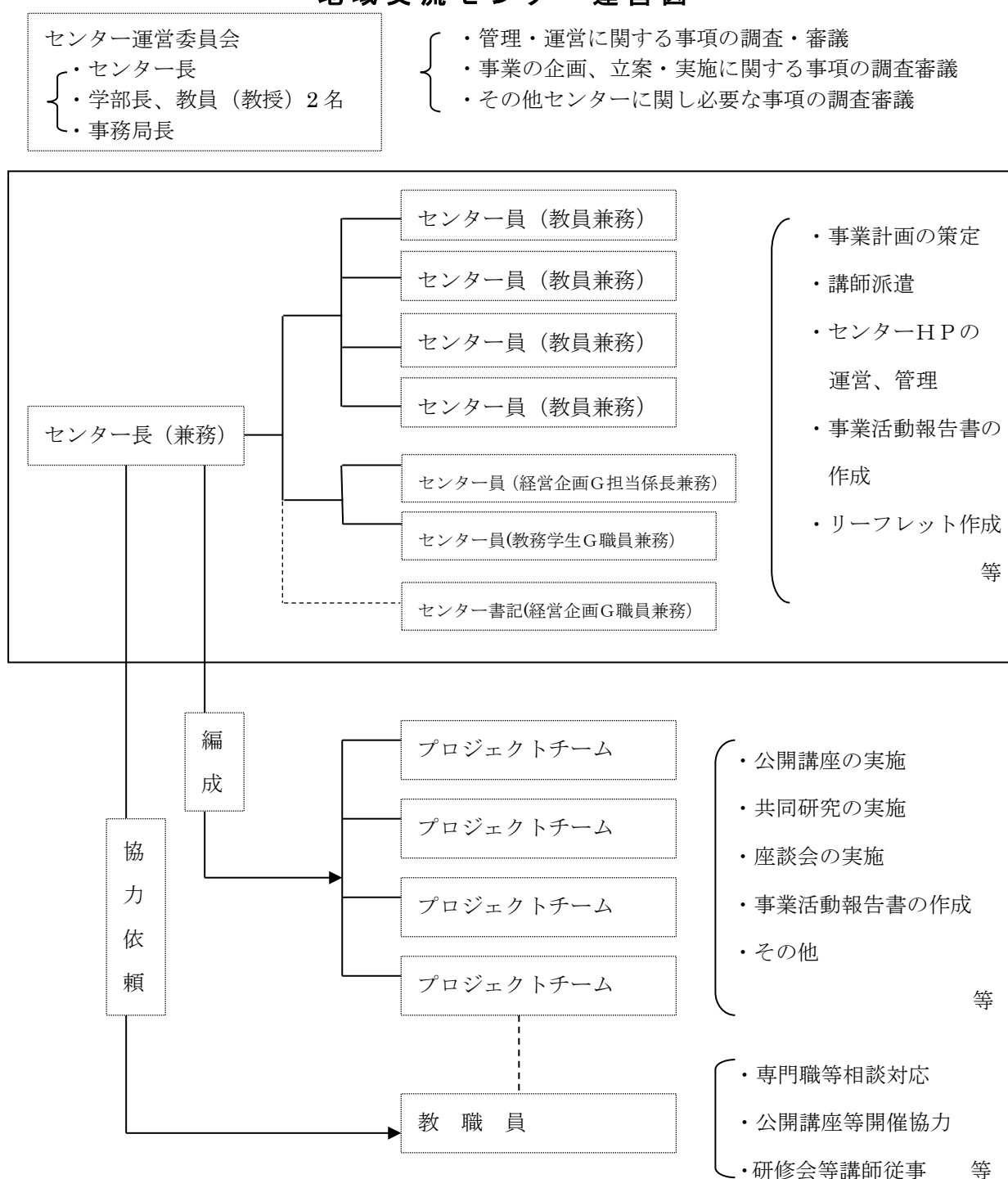
VII 参考資料

地域交流センターの組織（令和 3 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 8 名（教員 6 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地 域 交 流 セ ン タ ー 運 営 図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。

3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。

3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

（任期）

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（運営）

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正 2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

